【一般質問】 令和7年6月定例会

質問 順序	通告 順序	質問者	質問の要旨	具体的内容
1	8	戸匹 映二	1. RSウイルス感染症について	(1) RSウイルス感染症の現状について ① RSウイルス感染症に対する市の認識をお伺いします。 ② RSウイルス感染症を発症した場合の現状の医療体制と予防方法をお伺いします。 ③ RSウイルス感染症の予防として、RSウイルスワクチンがありますが、このワクチンに対する市の認識をお伺いします。 (2) RSウイルス感染症の予防対策について ① RSウイルス感染症での重症化のリスクが高いとされる乳幼児や高齢者などを中心に、市民への予防へ向けた周知・啓発が必要と考えますが、いかがでしょうか。 ② 特に感染時のリスクが高く、重症化や死に至る病となりうる基礎疾患を持つ高齢者を対象に、その予防を目的としたワクチンの接種費用助成を行ってはいかがでしょうか。
			2. 風水害時の住宅への浸水対策について	(1) 住宅への浸水対策について ① これまで白杵市で行ってきた住宅への浸水対策と今後の対策についての考えをお伺いします。 (2) 止水板の設置について ① 住民の自助努力を支援するために住宅への浸水対策として止水板の設置費用助成を行っていただきたいがいかがでしょうか。
2	4	広田 精治	1. 同和対策事業について	(1) 国が昭和44年以来33年間続いた同和地区・同和関係者を対象とした特別対策を終了(平成14年3月)し、一般対策に移行した主な理由について、本市はどう受け止めているか問う。 (2) 旧同和対策事業特別措置法に規定する「対象地域住民」に限定した本市の子育て支援制度について以下問う。 ① 同和対策進学奨励金交付制度について ・ 制度が始まった年、制度の目的 ・ 過去における交付決定の実人数(高校生・大学生別) ・ 申請人が「対象地域住民」であるかどうかの判定方法 ② 本市には今も同和地区(被差別地区)が存在しているとの認識かどうかを問う。 ③ 同和対策進学奨励金交付制度以外の、本市における同和対策事業のすべての制度の名称を明らかにしていただきたい。 (3) 本市新採用職員に義務付け、白杵市に勤務する全教師が受講することとしている、いわゆる旧同和地区でのフィールドワーク研修について以下を問う。 ① フィールドワーク研修を行なうに際して、現地自治会等の理解、承諾を得ているか問う。 ② フィールドワーク研修は当該住民の人権侵害の恐れがあると考えますが、見解を伺う。 ③ 「新任校長及び市内に転入してきた校長に対して、部落解放同盟大分県連合会白杵支部長に面談をしていただいている」とのことだが、その理由を伺う。 (4) 「同和対策事業特別措置法」「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」が失効して23年が経過。本市独自の同和対策事業は一日も早く廃止すべきと考えますが、見解を伺う。
			2. 障がい者日常生活用具給付事業について	(1) 障がい者が必要とする日常生活用具の価格高騰が著しい。障がい者を支える家族の経済的負担の軽減を図るために基準額の引上げが急がれる。以下問う。 ① 令和7年度4月1日現在の受給している障がい者数、及び令和6年度決算額。 ② 白杵市の基準額は低く、引き上げは喫緊の課題と考えるが、見解を伺う。

【一般質問】 令和7年6月定例会

質問 順序	通告 順序	質問者	質問の要旨	具体的内容
3	1	安東 鉄男	1. 公立学校の適正配置について	(1) 公立学校の適正配置について 公立学校の適正配置について本年2月に第1回目の地域説明会が開かれ、以後、6月までに対象校区で、合計15回開催された。その際、いろいろな意見があったが、それらを受け、教育委員会として公立学校のあり方・基本計画に関して、その後の進捗状況並びにスケジュールについて伺う。 (2) 小中一貫校の設置について 現校舎について40年以上経過した校舎が多くなってきている。今後の少子化の傾向から見ても、新しい校舎に建て替える場合、小中一貫校の設置が望ましいと考えるが、どのように考えているか伺う。
			2. 「うすき石仏ねっと」の現状と今後の展開について	(1) うすき石仏ねっとの現在の運用状況について 白杵市では、地域医療の質の向上と円滑な医療連携を目的として、「うすき石仏ねっと」が導入されている。市として以下の現状をどのように認識しているか伺う。 ① 現在の参加医療機関数とカバー率 ② 利用されている主な機能(紹介状、検査結果、服薬情報等の共有など) ③ 実際の運用上の利点や課題 (2) 住民サービスとしての効果と評価について 安心して医療を受けられる環境づくりの一環として、「うすき石仏ねっと」がその一助となっていると思うが、その効果などを市としてどのように評価しているか伺う。 ① 救急搬送時における効果 ② 参加施設間の情報共有による重複検査・投薬の削減効果 ③ 利用患者・家族からのフィードバックや満足度調査の有無
4	3	甲斐 尊	1. 林野火災対策について	大船渡市をはじめ、全国的に大規模な山火事が頻発しており、民家にまで延焼が及ぶなど甚大な被害をもたらしている。 貴重な森林資源及び家屋等市民の財産を林野火災から守るための対策について、改めて検証する必要があると考え、白杵市における林野火災対策について伺う。 (1) 林野火災が発生した場合の対応策について (2) 近隣の消防本部及び国、県との連携について (3) 火の取り扱いに関する市民への注意喚起等予防対策について
			2. 「二地域居住」及び「地域通貨」の実現に向けた取り組みについて	(1) リ・スタートうすきに掲げる重点施策「二地域居住」及び「地域通貨」については、令和7年3月定例会の一般質問において、まずは調査研究を進める旨の答弁があったが、その後の進捗と併せ、実現に向けたロードマップをどのように描いているのか等、取り組みの状況を伺う。
5	6	伊藤 淳	1. 白杵干潟アサリ復活プロジェクトについて	白杵干潟アサリ復活プロジェクトについては、令和5年3月定例会で中野前市長が「県や漁協、海洋科学高校などと連携し、アサリをはじめ魚介類の資源回復を目指す」と説明があり、また、令和6年6月定例会で「将来的な漁業振興につなげてまいりたいと考えている」と答弁がありました。本年3月予算委員会では「令和7年度には、稚貝の分布状況や母貝団地の研究を進める」「体験型SDGsツアーを行う」と答弁がありました。そこでお尋ねします。 (1) 今年度中に行う予定となっている新たな取り組みについて教えてください。 (2) 「将来的な漁業振興につなげたい」とは具体的にはどのようなことなのか教えてください。 (3) アサリが復活した後、県・市・漁協・学校・地域の連携や役割など、最終的に目指している姿を教えてください。
			2. 避難所設備の改善について	住み慣れた地域で安心して暮らせるまちであるため、災害への備えは大事な取り組みの一つであり、避難所の設備の改善としてスポットクーラーの設置などがこれまでも行われてきたところです。 また、令和7年3月定例会での西岡市長の所信表明においても「避難所設備を改善し、いざというときに迅速に対応できる環境をつくりたい」と述べられました。そこでお尋ねします。 (1) 今後、改善を検討している避難所の設備を教えてください。

【一般質問】 令和7年6月定例会

質問 順序	通告 順序	質 問 者	質問の要旨	具 体 的 内 容
6	5	平川 幸司	1. 市民サービスを向上させるための市役所体制について	(1) 職員の働き方について ① 業務の在り方について ② 組織の在り方について (2) 人材確保について ① 採用状況について ② 人材確保の取り組みについて
			2. カスタマーハラスメント対策について	(1) 白杵市の考え方について (2) 現状と対応について (3) 方針と今後の防止対策について
			3. 白杵が誇る文化遺産について	(1) 国宝白杵磨崖仏を後世に伝えるための取り組みについて
7	9	河野 巧	1. 地域の移動手段(地域交通)の維持・確保について	<p>令和8年度を目標とした「白杵市地域公共交通計画」を実施する上で、人口減少に伴う経費の見直しが必要な状況であり、また前計画の「白杵市地域公共交通網形成計画」に掲げた事業実施の評価として「着手したが実施に至らず」や、「未実施」となった事業もありました。これまでの計画実施における担当部署ごとの対応ではなく、今後は広域的な住民の移動手段における利便性・生産性・持続可能性に向けた多様な関係者との連携・協働を具体的に結び付けて行くことが必要だと考えています。そこで以下について伺います。</p> <p>(1) 現在、白杵市には広域的な住民の移動手段としての交通手段はどのようなものが存在していますか (2) 路線バスやコミュニティバス、スクールバス、各種施設送迎車等が重複する路線を統合する検討や活用方法について協議を行ったことがありますか (3) スクールバスの混乗を含めた間合い利用の検討について (4) 小中学生が登下校や部活動(クラブ活動含む)、社会教育活動等に路線バス、スクールバス等を無料利用できる検討について (5) 今後の地域公共交通のあり方検討及び地域公共交通計画の見直しについて</p>
			2. 白杵市立小・中学校のあり方及び子どもの教育全般について	<p>令和7年2月より、白杵市教育委員会が適正化配置の対象とした小学校区において地域説明会を行っていましたが、4月より当初の案から変更された内容についての地域説明会や保護者説明会が開催されています。説明会の中で「現在の子ども数では、10年を待たずにまた統合を行うのではないか。今後の子どもの人数の推移をしっかり考えて提案してほしい」や「防災・減災の面も考慮してほしい」との意見も出されていました。そこで、白杵市の小中学校のあり方及び子どもの教育環境、子どもの教育全般について伺います。</p> <p>(1) 当初案と修正案の説明で大きく異なる点について (2) 今後5年後、10年後の子ども数の変化による白杵市の学校適正配置について予算を含めた予測される事項について (3) 特認校の考え方と新規に特認校を設置する考え方について (4) 次世代を生き抜く白杵で育つ子どもの教育の今後の方向性について</p>

【一般質問】 令和7年6月定例会

質問 順序	通告 順序	質問者	質問の要旨	具体的内容
7	9	河野 巧	3. 旧県立野津高校跡地について	<p>平成25年12月、大分県教育財務課長より臼杵市教育委員会に対し跡地利活用計画に関する照会があったことからスタートした旧県立野津高校跡地利活用。その後、大分県と臼杵市とで利活用についての協議が進み、令和2年3月の臼杵市議会の議決を以て有償譲渡され、1社によるプロポーザルで事業者を決定し、最終的に旧県立野津高校跡地利活用事業は失敗に終わりました。この事により臼杵市民をはじめ多くの方が損害を被る形となり一般債権として臼杵市は2,035万6,480円を請求しましたが1円の配当もなく破産手続きは完了。その後、旧野津高校の普通教室棟を約3,500万円の経費をかけリニューアルし、本年4月26日に多世代交流館「のつてらす」として再オープンしました。</p> <p>(1) 西岡市長は、市長就任後に確定した2,035万6,480円の損失について、臼杵市が市民に与えた責任の所在とこの負債を負うことになった事業についてどのように考えていますか。</p> <p>(2) 西岡市長は、旧野津高校跡地利用について、多世代交流館「のつてらす」やグラウンド利用の「かんしょ広域選果場整備事業」などに対し、今後3年間に臼杵市の予算をどの程度投入し、これまで旧野津高校跡地に対して投入してきた予算と合わせて総額どのくらいの規模で旧野津高校跡地を活用する予定と考えていますか。</p> <p>(3) 民間への土地や施設売買の考え方について</p>
8	2	奥田富美子	1. 学校給食等における「ほんまもん農産物」の使用率向上について	<p>(1) 臼杵市学校給食センターでは、学校給食における「ほんまもん農産物」の使用率を30パーセントと掲げて取り組みをしていますが、ここ数年は20パーセント前後で推移していると聞きます。</p> <p>① ニンジン・玉ねぎ・ジャガイモは、冷蔵保存によって安定的に供給できていますが、その他に安定供給している品目はありますか。</p> <p>② 使用率を上げるため、これまでどのような試みをしてきましたか。また、今後の課題としてどのようなことがありますか。</p> <p>(2) 学校給食の食材に加え、防災の視点からも臼杵の野菜を乾燥・冷凍して保存するとよいと考えます。ほんまもん農産物など地元で生産されたものを地元で加工・消費することについて、予定していることがありますか。</p>
			2. 介護職に対する臼杵市独自の処遇改善について	<p>(1) 介護従事者の人材確保が課題となっています。住み慣れたところで安心して老後を迎えられるように施策の充実が求められます。その際、介護従事者の人材確保が課題であることは周知の事実です。2000年の「介護保険制度」スタート時は、在宅介護が中心だったように思いますが、施設の充実や社会状況の変化もあり、施設でのサービス利用が増えています。住み慣れた自宅で最後まで過ごすことを望む方々のために、臼杵市独自で訪問介護の処遇改善に取り組み、在宅介護の充実を図ってはいかががでしょうか。</p>
			3. 個別避難計画について	<p>(1) 災害時に自力で避難することが難しい避難行動要支援者を把握し、個別避難計画を立てることが進められていますが、進捗状況はどうなっていますか。</p>
9	7	匹田久美子	1. 「臼杵市公立学校のあり方に関する基本計画(案)」について	<p>(1) 適正化配置により実現したい「より良い教育環境」とはどのようなものか</p> <p>(2) 各地域で出された不安や懸念の声をどう受け止めたか</p> <p>(3) 統合に向けた、児童の活動スケジュールや心のケアについて</p> <p>(4) これからのコミュニティスクールの考え方とあり方について</p> <p>(5) 小中一貫校の設置など今後の「公立学校のあり方検討委員会」の進め方はどのように予定しているか</p>
			2. 臼杵市の情報発信力を高める取り組みについて	<p>(1) 現在活用している本市の情報発信ツールについて</p> <p>(2) 公式LINEなどSNSによる情報発信の現状とさらなる充実について</p> <p>① 公式LINEの登録者、運用頻度・内容、市民の反応など導入の効果について</p> <p>② 「AIチャット」や「市民レポート」など、双方向の機能を付加することについて</p> <p>③ インスタグラムやユーチューブなど、写真や動画を活かしたSNS配信について</p> <p>(3) 観光案内看板やパンフレットにおいて二次元コードを有効に使うことで情報発信することについて</p>